豚 肉 情 勢

5月12日 更新　　JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容
供給	1.国産	○ 3月の全国豚と畜頭数は、1,470千頭と前年を下回った(前年比97.9%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道100.7%、東北101.1%、関東96.8%、北陸甲信越101.2%、東海93.5%、近畿96.4%、中四国100.3%、九州・沖縄96.4% ○ 4月の全国と畜頭数は、1,330千頭(速報値4月30日まで集計、前年比96.0%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年同様で、1日当たりの平均と畜頭数は66,495頭(前年実績:69,268頭/日、前年差△2,773頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;4月21日付け)によると、5月;1,326千頭(前年比100%)、6月;1,312千頭(同98%)、 7月;1,294千頭(同103%)、8月;1,308千頭(同99%)、9月;1,329千頭(同98%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約100%と前年並み。
	2.輸入	○ 3月の輸入通関実績は、豚肉全体で69.1千ﾄﾝ(前年比96.1%、前月比96.9%)と前年を下回った。 内訳は、チルドが36.0千ﾄﾝ(前年比92.1%、前月116.5%)、フローズンは33.1千ﾄﾝ(同100.8%、同81.9%)となった。 国別でみると、チルドではメキシコが増加した。フローズンでは、チリ・カナダが増加した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド　;米国17.0千ﾄﾝ(前年比83.7%)、カナダ16.3千ﾄﾝ(同99.3%)、メキシコ2.7千ﾄﾝ(同114.3%) フローズン ;スペイン10.6千ﾄﾝ(同97.3%)、メキシコ5.5千ﾄﾝ(同82.9%)、チリ3.6千ﾄﾝ(同184.0%)、デンマーク3.6千ﾄﾝ(同93.4%)、カナダ2.2千ﾄﾝ(同152.4%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(4月26日公表)によると、4月の輸入量;93.5千ﾄﾝ(前年比85.9%)および5月の輸入量;79.0千ﾄﾝ(同102.0%)と4月は前年を下回るが5月は前年を上回る。 チルドは、北米の現地価格の高止まりや為替の影響などから低調な数量が継続すると見込まれる。5月は前年が入船遅れにより減少していたことから上回ると見込まれる。 フローズンは、欧州各国からの供給が安定的に行われると見込まれるが、昨年の輸入量が多かったため下回ると見込まれる。 令和5年4月:合計93.5千ﾄﾝ(前年比85.9%)、チルド34.5千ﾄﾝ(同92.5%)、フローズン59.0千ﾄﾝ(同82.5%) 令和5年5月:合計79.0千ﾄﾝ(前年比102.0%)、チルド32.3千ﾄﾝ(同120.6%)、フローズン46.7千ﾄﾝ(同92.2%) 直近3か月(3月～5月)平均:合計80.1千ﾄﾝ(前年比93.1%)、チルド34.1千ﾄﾝ(同99.3%)、フローズン45.9千ﾄﾝ(同88.9%)
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の3月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,857g(前年比96.2%)、支出金額が2,762円(同103.4%)となり、 購入量は前年を下回ったが、金額は前年を上回った。(※2019年度比:購入量 99.0%、金額 108.8%)
	2.小売動向 3月概況	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の3月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,139億円(前年比102.1%、既存店ベース101.5%)と前年を上回った。 相場高が続き、買上点数の減少は続いているが、豚肉や鶏肉ではやや回復傾向がみられた。牛肉は焼肉用の動きは良いが、和牛など高単価商品の動きが鈍い。豚肉は輸入品の価格高騰より 国産が良好となっている。鶏肉は鳥インフルエンザの影響による高値が続くが良好に推移する店舗が多い。低価格商品に需要がシフトしており、売上高は確保できても利益が出にくい状況が続いている。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した3月販売概況によると、畜産品の売上は873.2億円(店舗調整後で前年比98.4%)となり、前年を下回った。 豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。
	4月概況	○ 月前半は、消費者の生活防衛意識が高く末端消費が低迷したことで需給は軟調に推移していたが、中旬以降は学校給食の再開に加え、 量販店での特売需要の増加やGW向け手当て等による需要が重なったことで需給がひっ迫した。
	3.加工肉 仕向量	○ 日本ﾊﾑ・ｿｰｾｰｼﾞ工業協同組合発表の3月の豚肉加工品仕向量は28.6千ﾄﾝ(前年比93.9%)と、加工品の値上げによる販売不振は続き、前年を下回った。 内訳は、国産原料5.3千ﾄﾝ(前年比91.4%)・輸入原料23.3千ﾄﾝ(同94.5%)で、国産・輸入原料ともに前年を下回った。 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは10.7千ﾄﾝ(前年比107.1%)と、上回った。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(4月26日公表)によると、3月末の推定期末在庫量は209.8千ﾄﾝ(前年比116.5%、前月比100.4%)となり、前年を上回った。 内訳は、輸入品;189.6千ﾄﾝ(前年比121.4%、前月比100.3%)で前年を上回り、国産品;20.2千ﾄﾝ(同84.3%、同101.5%)で前年を下回った。 また、今後の期末在庫は、4月が214.3千ﾄﾝ(同111.5%)、5月が224.9千ﾄﾝ(同111.8%)と、いずれも前年を上回って推移するものと見られる。
枝肉相場	1.R5年4月 速報値	○ 4月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;4月30日時点)は、562円/kg(前年比114.5%)と前年を上回った。 4月の相場は、上旬は内食需要の低迷から弱含みでの推移となったが、中旬以降は学校給食の再開、量販店向けの特売需要の増加やGW向け手当て等により 需要が伸長したため、強含みで推移したことで、前年を上回ったが前月は下回った。
	2.予測 R5年 5月	○ 5月の相場は、需要面では消費者の生活防衛意識が依然高いため、牛肉から豚肉への需要シフトが進むと見込まれることから底堅く推移するものと思われる。 一方で、供給面では中旬以降に出荷頭数の減少が見込まれていることから、需給がひっ迫する可能性があるため、前月より強含みで推移すると見込まれる。

＜相場予想: 東京市場、税込み＞

	3月実績	4月速報値	5月予測	6月予測
【上物】(前年比)	573円/kg(113.0%)	562円/kg(114.5%)	600円/kg(94.8%)	620円/kg(94.8%)

備考

国内生産量の推移　(千頭:%)

暦年	国内と畜頭数	
	千頭	前年比
R1年	16,320	99.3
R2年	16,686	102.2
R3年	16,836	100.9
R4年	16,577	98.5
R4年　12月	1,462	96.8
R5年　1月	1,384	96.8
R5年　2月	1,312	98.4
R5年　3月	1,470	97.9

農水省出荷予測　(千頭:%)

暦年	出荷予測	
	頭数	前年比
R5年 4月	1,372	99
R5年 5月	1,326	100
R5年 6月	1,312	98
R5年 7月	1,294	103
R5年 8月	1,308	99
R5年 9月	1,329	98

輸入量の推移　(ﾄﾝ・%)　財務省:通関実績

暦年	輸入数量		チルド数量	
	ﾄﾝ	前年比	ﾄﾝ	前年比
R1年	958,963	103.7	407,360	100.1
R2年	891,807	93.0	416,334	102.2
R3年	903,455	101.3	420,361	101.0
R4年	977,158	108.3	403,854	96.3
R4年 12月	68,932	92.5	26,631	86.9
R4年 1月	74,909	90.7	34,559	88.7
R4年 2月	71,321	99.2	30,907	87.9
R4年 3月	69,116	96.1	36,010	92.1

家計消費量　(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り			
	数量	前年比	金額	前年比
R1年	21,178	98.4	29,637	96.9
R2年	22,973	108.5	32,861	110.9
R3年	22,559	98.2	31,892	97.1
R4年	22,297	98.8	32,487	101.9
R5年 1月	1,872	97.3	2,925	106.2
R5年 2月	1,795	97.1	2,712	102.7
R5年 3月	1,857	96.2	2,762	103.4

加工品仕向量　(千ﾄﾝ・%)

暦年	加工品仕向量	
	千ﾄﾝ	前年比
R1年	372.1	98.8
R2年	376.7	101.5
R3年	379.4	100.6
R4年	368.5	97.4
R4年 12月	32.9	96.6
R5年 1月	28.1	100.7
R5年 2月	25.8	92.1
R5年 3月	28.6	93.9

市況の推移(東京市場)(円/kg・%)

暦年	豚枝肉「上物」(税込み)	
	円／kg	前年比
R1年	524	101.2
R2年	561	106.9
R3年	546	97.3
R4年	582	107.0
R5年1月	530	105.0
R5年2月	588	115.1
R5年3月	573	113.0
R5年4月速報値	562	114.5